発行所
真宗大谷派宗務所
代表者　木越　渉
編集／東本願寺出版（真宗大谷派宗務所出版部）
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189（東本願寺出版）

購読料　無料
送　料　1部1カ年1,300円
（1,182円+税10%）※部数により変動
振替口座番号　01000-6-27404
加入者名　東本願寺出版部

「能登復興支援法座
能登節の夕べ」を
動画で公開しています。
能登節の夕べ　検索

どうぼうしんぶん
同朋新聞

Dōbō Shimbun

1
Vol. 806
January 2025

能登復興支援法座　能登節の夕べ

今月の写真

御正忌報恩講期間中の11月21日・22日に飛地境内地の渉成園「閬風亭」において、令和6年能登半島地震復興支援事業として「能登復興支援法座 能登節の夕べ」が開催され、能登節の伝承者である廣陵兼純氏による節談説教が行われました。

（7面参照）

今月の法話　如是我聞

「いのち」の事実に目覚める

北海道教区第19組 西照寺
小川一乘（88）

仏法に出遇うということは、私たちのただ今の「いのち」は数え切れないほどの因縁との関係によって成り立っているという、「いのち」の事実に目覚めて生きる者となることです。すなわち、「生かされる「いのち」尊し」と、「生かされている私」として生きる者となることです。

ところが、この事実に目覚めて、そのように生きる者となろうとしても、その「いのち」を「私が生きている」と私物化して、自分の思いどおりに生きようとして「愛憎違順※・喜怒哀楽」の苦悩を作り出しているのが私たちの現実です。その現実を見つめ問い続ける、それが念仏者の聞法生活です。言い換えれば、仏法に出遇うことによって聞法生活は始まるのです。

そのような念仏者について、親鸞聖人は、「浄土の真実信心の人は、この身こそあさましき不浄造悪の身なれども、心はすでに如来とひとしければ、如来と申すこともあるべし」（『真宗聖典第二版』七二三頁）と言い切っておられます。

病床にあって、「こんな苦しい思いをさせていただけるのも、仏さまから「いのち」をいただいたお陰です。勿体ないことです」と、苦しそうな息遣いの中で、お念仏を称えていた御門徒との出会いが、私の「如是我聞」の原点となっています。

※愛憎違順…自分の心にしたがうことであればむさぼり愛し、心に違うことであれば、いかり憎むこと。

あなたの声が『同朋新聞』を作ります

より充実した紙面をつくるため、『同朋新聞』に関するアンケート調査を実施します。
いつも『同朋新聞』を読んでくださっているみなさまの率直なご意見をぜひお聞かせください。

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントが当たります！
※当選発表は、当選者の方にのみ3月上旬までにご連絡します。※回答内容は『同朋新聞』の内容向上のために使用し、適切に管理します。

しめきりは1月31日（金）だよ！

みなさまからのご回答をお待ちしております！

Aコース　3組6名　編集者による東本願寺の見どころ解説ツアー　諸殿でのお斎付き

Bコース　5組10名　東本願寺諸殿でのお斎にご招待

Cコース　20名　東本願寺オリジナルグッズ

回答はこちらから

令和6年能登半島地震で被害に遭われました被災者の方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます

この紙面では、さまざまな人をとおして、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。

人間といういのちの相（すがた）

連載

お内仏に手を合わせて

2024年1月1日の能登半島地震から1年。大きな被害のあった能登の地には353もの真宗大谷派の寺院があり、本堂に大規模被害を受けた寺院は74カ寺に及びます。能登の地に住まわれる多くの御門徒も被災されました。また9月の豪雨災害でも、多くの被害がありました。「これからもお内仏に手を合わせていきたい」と語られる小谷まゆみさんのお話から人間の相（すがた）を考えます。

インタビュー 小谷（こたに）まゆみさん

輪島市在住。37年間看護師として医療に従事。能登教区第7組佛照寺門徒。

地震と豪雨災害にみまわれて

――小谷さんは、お住まいの輪島市で被災されましたが、今はご自宅で生活されているんですか。

私の家は昨年1月の地震で一部損壊してしまったので、避難所で4カ月間生活していました。その後、自宅に戻って生活をしていたのですが、今度は9月の豪雨災害で家が床上浸水してしまいました。私の胸のあたりまで水が来て、1階が全部水没しました。今は2階でネコと一緒に生活しておるんですよ。

豪雨時の様子（小谷さん提供）

――まだまだ大変な状況の中かと思いますが、昨年1月1日の地震の時はどんな状況でしたか。

毎年、年末年始は心を新たにと近くのホテルに泊まっていたので、いつもと同じようにホテルでお正月を過ごそうと宿泊していました。そしてちょうど、自宅にいるネコの様子を見に帰った時に地震が起こりました。

目の前にあったベッドの下に潜って揺れが収まるのを待ちました。ガラスなどいろいろなものが落ちてきて、もしもの時の備えとして枕の下に置いていた防災頭巾も、全然役に立ちません。揺れたらとにかく逃げるしかない、そんな感じでした。揺れが収まって外へ出ようと思ったら、げた箱も倒れてふさがっていて、手近にあった靴を履いて何とか避難しました。本当はホテルにもう1泊する予定だったけれど、そこへ戻ることもできなくて…。

2023年にも大きな地震があったから、避難のリハーサルを2回していました。周りに住んでいるお年寄りの方たちを連れて、車中泊の体験もしました。なので、1月の震度7の地震の後も、リハーサルと同じように、すぐ高台へ逃げることができました。やっぱり訓練は大事だし、いざという時の動きを頭でシミュレーションしておかないと動けないと思いましたね。

高台には自衛隊の基地があり、その避難所に行って、自衛隊のバス2台にお年寄りの人や妊婦の人が過ごし、毛布1枚で寒さをしのぎました。

9月の豪雨災害の時は、自宅の周囲にだんだん水が上がってきて、外を見るとガスボンベがすぐ下まで浮きあがってきてるんですよ。全然外に出られない状態で、その時はとにかく自分のことで精一杯でした。そして、市役所に電話して、「すみません、助けてください」って伝えたけど、その後連絡はありませんでしたね。でも、4日目に社会福祉協議会の人から、生存確認の電話はかかってきました。

地震が起きるまでは何か備えをしなければと一生懸命考えていたけど、今はその時に逃げれば何とかなる、いのちを守ることが一番大事だと思うようになりましたね。

増水した川（小谷さん提供）

いのちが失われる悲しみ

――1月の地震の後は4カ月も避難所で暮らされていたんですよね。

最初にいた自衛隊の避難所から、その後地域の避難所に移動しました。以前看護師として働いていたので、退職して9年経っていたけど「できる範囲でやらしていただきます」って言って、避難所で看護師の役割も担いました。最初の1週間は24時間対応です。その時は、ノロウイルス、インフルエンザ、コロナウイルスと三つの感染症が避難所で同時に発生していたので、感染者の対応には気を使いました。

輪島市内の病院に27年間勤めていたので、患者さんも、家族の人も顔見知りで、みんなも私には相談しやすかったと思います。具合が悪い人には連絡先を教えて、「いつでもいいから連絡してね」と伝えていました。

避難所を出た後も、「小谷さん、具合が悪いんやけど、どうやね」って相談されたら、血圧計などを持ってそのお家にうかがったりして、今は私ができることをすればいいわと思ってやっています。やっぱり頼まれるということは、信頼してもらえているんだなとも思います。

地震も水害も起こったけれど、「何で私だけ」とは思っていません。これも与えられたものだし、「あなたなら頑張れるやろう」と言われているような気がしています。だから人を恨んだりとか、そういったことはしません。常に前向きで、後ろは向かないようにして、今、自分にできることは何だろうとだけ考えています。まだ片づけが大変だけど、それもあまり一生懸命に片づけなくても、こつこつとすればいいわって思っています。そうやって余裕のある気分でいないと、「何で自分だけが」って恨みがましく思ってしまいますよね。

――避難生活の中でつらかったことや悲しかったことはどんなことでしたか。

私が助けた人が、災害関連死で亡くなったことですね。

避難していた時、隣のテントに家族が住んでいました。お母さんは肺を患っていた人で、避難所から病院に行って亡くなってしまい、お父さんも施設から病院に行って亡くなったと聞きました。その時はやっぱり悲しかったです。せっかく地震でいのちが助かって、無事に生活していたのに災害関連死で亡くなったということが悲しいですね。

また、同じ避難所にいたおじいさんも、糖尿病で、地震後に薬がなかったので飲んでいなかったんですね。それで急に意識がなくなり、救急車で病院に運ばれて、一度は助かったものの、数カ月後に災害関連死で亡くなってしまいました。そうやってせっかくいのちをつないで、希望があったのに亡くなるというのは悲しいですね。その時は私、お友達に電話して泣きました。「あんまりやわ」って。だって、数カ月の間ですからね。だから人のいのちってわからないなと思いました。特に、避難所で間近に過ごして、親しくしていたから、なおさら悲しみがこみ上げてきたんだと思います。

私自身、これまで心臓の手術を受けたり、階段から落ちて頭を手術したりといろいろとあったのですが、それでも助かってきたんです。なので、私は生かされているなと思うんですね。「まだ何か世のなかで人助けをしなさいよ」という励ましなのかなと思って。

感謝の気持ちを忘れずに

――逆に避難生活でうれしかったことはありましたか。

人とのつながりでしょうか。私、今回あらためて人間関係って大切だなと思ったんです。最初の避難所から、地域の避難所に移動した時に、友達が「こっちおいで」って呼んでくれたので、その人たちの仲間に入れてもらったんです。

そして、避難生活から自宅へ帰った後も、その避難所のお友達と和気あいあいと話ができるようになったのがうれしいことですね。それで今度、お弁当を持ち寄って、みんなで語り合わないかとか、私の家が修復できたら鍋パーティーをしようとか、それを目標にね。だから、つらいこともあったけど、そうやっていろいろな人と思い合うつながりができたことはうれしいことですね。だって、私自身、家に帰ったって一人ですから。その避難所仲間の人は、私の家が浸水して、今も洗濯ができないもので、定期的に洗濯物を取りに来て、洗って届けてくれるんです。そういった人との出会いは、やはりありがたいなと思う。避難所でその人に出会わなかったら、こういうこともしてもらえなかっただろうし。

みんな一緒ですよ。いのちを持っている人は、みんな一緒。動物も一緒、同じいのちですよね。

「神、仏なんて、そんなもん信じられんわ」と言う人がいるでしょう。気持ちはわかる、でもそれは間違いだと思うの。結局それは、自分の都合で、都合が悪い時に、そういう言葉が出るんですよね。

最終的には、人間は誰しも自分の都合がいつも最優先。信じるも信じないも、その都合だけなんだと思う。仏さまはそんな人間を悲しんでいるのではないでしょうか。

――なかなかそのことに私たちは気が付けないんですよね。

私は毎朝お内仏に手を合わせて、仏さまに、「今まで生かさせていただき、ありがとうございました。今日1日が始まります」と言って、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」とお念仏することが日課なんです。それは地震や水害が起こっても今日まで変わりません。9月の豪雨災害でお内仏も水に浸かってしまったから、住職さんに三折御本尊をいただいて、今はそれをロッカーに入れてお参りしています。やはり手を合わせるということは大切ですね。生かされているということを感じます。いつまで生きるのかを私たちは決められませんが、どのように生きるかは決めることができます。今は決して後戻りをせず、前を向いて少しずつ進んでいこうと思っています。

私も、昔からこんなに手を合わせる生活をしていたのではありません。もともとは、嫁いだ家の父と母が朝晩お内仏にお参りして、お寺の行事にも全部行っていたんですね。それで、二人とも亡くなってしまったこともあって、バトンタッチされたみたいな気持ちで私もお内仏に手を合わせたり、お寺の行事に参加するようになりました。2023年の親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年慶讃法要の時には京都の東本願寺にお寺のみんなとお参りに行ってきたんです。両親のお骨を収めていることもあり、私が生きている間に手を合わせにいきたいなという目的もあって。また、法要に参拝して法話を聴いたり、展示を見たりして親鸞聖人について勉強させてもらった時間を今は懐かしく思います。

――地震や豪雨災害を経験して、今思っておられることはどんなことですか。

そうですね。地震でお寺も被害を受けてしまい、今はお寺に行くことができなくなってしまいました。私は、お寺の法話を聴きに行くのが好きだったんですよ。旅行に行った時も、その地のお寺に行って法話を聞くほどだったんです。だから聞法の場がなくなってしまったことが悲しいですね。

お寺で法話を聞いて、ご飯を食べて。住職さんもすごく優しくて本当に雰囲気がよかった。住職さんは今回の災害の時も水を持ってきてくれたり、細かいところに気を回してくださって。本当によい関係が築けていたと感じています。

――これから、復興についてはどのように思われていますか。

残念なことですが、地域の状態がこれ以上そんなによくなることはないのではないかと思います。地震も余震がまだ続いていますし、その上豪雨災害もあって、そのうち、みんな心が折れてしまうだろうと思います。本当はもう折れているのかもしれません。

私も今後、自宅をどうしようかと考えると、このまま輪島に住み続けたい気持ちと、どこか他の場所へ移ろうかという気持ちと半々なんです。

私の家は、地震で天井に十文字に亀裂が入っていて、その上に床上浸水までしてしまいました。これから冬が来て豪雪が来たら、雪の重さで家がつぶれないかと心配です。この辺りでも車が隠れるほど雪が積もることもありますから、そういった心配も絶えないです。何ごとも最悪の状況を想像して次の対策を考えていなければいけないなと思いますね。

でも、やはりみんな笑って生活したいですから。お内仏に手を合わせて、周りに感謝しながら一歩ずつ進んでいきたいです。

（了）

多くの土砂が流れついた（小谷さん提供）

次号（2月号）は、宗会関連記事掲載のため「人間といういのちの相」を休載いたします。

通信員リレーリポート

現在を生きる

第254回

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。

仏法に出遇う 人と出会う

小松大聖寺教区 第2組 勝光寺門徒
田端利明さん（73歳）
由美子さん（68歳）

田端利明さん・由美子さん

石川県南加賀の地、小松大聖寺教区は、「お講」が500年以上前から受け継がれてきている。13の組門徒会が組織され、世話方が町ごとに「組お講」を開いて仏法聴聞の場をもち、相続講金を集めている。その一つ粟津組門徒会で世話方をされている、田端利明さん・由美子さんご夫妻を訪ねた。

田端さんは、プラスチック加工業を営まれている。休日や仕事終わりはいつもお二人で、教務所やお手次寺、近隣のお寺で開かれる法座に通われている。

60歳を過ぎた頃、母親からお内仏の給仕を引き継いだばかりの利明さんは、浄土真宗のこともわからず〝ナムアミダブツ〟を称えても意味のない呪文になると思い、仏教書を繙いた。そんな折に宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌のご縁に遇い、「正信偈」の読み方を「真四句目下」で練習し法要で唱和したことが、お二人が真宗の教えを聞くきっかけとなった。

「粟津組御講」の様子

利明さんは、教えについて驚くほど学びが深い。本を読んで疑問がわくたびに新たな本を求めてきたそうだ。由美子さんは、別院や教務所の法座で聞法仲間ができ、学習会に参加するなど聞法の場をどんどん広げていった。

8年前、ご夫妻に大きな出会いがあった。沖縄の小児科医で仏教塾を開く志慶眞文雄さんとの出会いだ。お二人は、志慶眞さんと語った時の感動を今も持ち続け、ともに聞法の道を歩まれている。

聞法の中で思うことを伺った。

「あなたの信心は何かと問われても、信心はこれだと言えない。蓮如上人の『そのかごを水につけよ』の教えはすごい。聞法は続けていくもの。聞けば聞くほど救いようのない身であることがわかってくる」と利明さん。由美子さんは「気づきが信心だと思う。信心はとどまっていない。深まっていく。だから聞法が大事。そして人と出会うことが大事」と応えられた。最後にお二人は、仏法に出遇った喜びを伝えてくれた。「仏法に出遇うことは、人と出会うこと。聞法していなかったら、今出会っている人たちとの出会いはなかった。さみしいことだ。仏法の力だなあ。不可思議だ」。

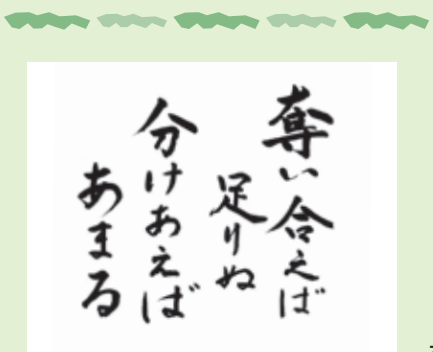
いつか法話で拝聴した「生活の一部に仏法があるのではなく、仏法の中に生活がある」という姿をこのご夫妻に見たように思う。

小松大聖寺教区通信員
森本信子

縁 お寺の掲示板

第17回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



光臨寺が所属している高松市仏教会は、お寺へあがる「おそなえ」を仏さまからの「おさがり」として、経済的に困窮したご家庭に「おすそわけ」をする「おてらおやつクラブ」という活動に参加しています。今回の法語はその活動をとおし、持ち寄ることの大切さや奪い合うことの愚かさを伝えたいと思い、この言葉を選びました。

光臨寺（四国教区 東讃組）
香川県高松市太田上町557
住職 佐長知史

光臨寺の伝道掲示板は住職の知史さんと坊守の京子さんが筆を執られている。法語は毎月起筆されており、お二人で相談しながら決められるそうだ。

掲示板は山門の前に設置されており、車や人の通行が多い道路に面している。さらに、近くには学校があるため、幼い子どもから大人まで幅広い年齢の方が目にされる。

お寺のある高松市太田地区は、名前のとおり田畑が多く農業の盛んな地域だったが、近年急激に田畑が減り、新たに多くの住宅が建設され、現在ではお寺の周辺でもまったくお寺との接点を持たない方がほとんどだという。

「お寺と接点のない方にも関心を持ってもらえるよう、掲示する言葉は仏教語にこだわりすぎず、時事問題や自分の心に引っかかったことから選びます。また、車内からでも読めるような文字数にまとめることを意識しています。掲示板を縁に、幅広い年齢の方にお寺の存在を伝えられたらうれしいです」と語る知史さん。

これからもお二人が書かれる掲示板は多くの方へお寺からの発信源となり、新たな言葉や思いと出会う場となることだろう。

四国教区通信員
河野有信

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入 Tel.075-343-0458 Fax.075-371-0458
法藏館
https://pub.hozokan.co.jp　info@hozokan.co.jp　新刊メール配信中！
お買上16,500円（税込）以上送料無料　表示価格はすべて税込

法話特集

親鸞のおしえ——真宗入門講座
廣瀬杲［著］
初めて親鸞聖人の教えに触れる人のために、往生浄土を目指す生き方とはいかなるものかを現代の視点に立って説く。
六六〇円

お浄土はいのちのふるさと
小川一乗［著］
現代人の心に、縁起の道理を知り涅槃寂静の世界に生きる安らかな人生のあることを提言する講義録。
一、一〇〇円

ひとくち法話 **いま伝えたい言葉**
中村薫［著］
心に響く仏教者や哲学者らの名言から、現代の問題を照らした短編法話集。
一、四三〇円

真宗門徒の生活に自信を持とう
宮城顗［著］
真宗門徒の生き方とは、立派になるのではなく、どこまでも支えてくれる確かな道に出会うということ。大きな字の読みやすい一冊。
一、一〇〇円

三分間法話集
松井恵光［著］
法話の大家が書き下した短篇法話の決定版。豊かな話題を駆使して念仏の心をわかりやすく説き明かす。
一、三二〇円

浄土和讃のおしえ 上・下
澤田秀丸［著］
上 一、三二〇円　下 一、四三〇円
親鸞晩年の傑作『浄土和讃』全首を、意訳・解説法話で読み解く入門書。一首の説明が見開き二頁で、わかりやすい。

真実の道——歎異抄のことば
前田願海［著］
この出遇いが、私を生かしてくれた——人の師を求め世界中を遍歴した末に、巡り合った恩師と『歎異抄』のことばに導かれた一生。
一、一〇〇円

親鸞聖人を讃えることば——和讃もどきとその随縁
佐藤賢昭［著］
著者のご旧跡参拝など様々な思い出を織り交ぜながら、七五調で親鸞聖人を讃えることば九十篇をまとめた新しいかたちの短篇法話集。
一、一〇〇円

嘆仏偈〈書写用〉——真宗大谷派版
法藏館編集部［編］
お経を書いてみたい、でも何を書いていいのかわからない。初めての書写におすすめ！ 気軽に始められる、鉛筆で書ける『嘆仏偈』。
三八五円

〈季刊誌〉**ひとりふたり・・お正月を迎える**
身近なことから真宗の教えにふれる聞法誌。新連載…お寺de掲示板（小林尚樹）

施本に最適！1部＝136円
三〇部以上のご購入で一部二〇円に割引。

真宗本廟奉仕に参加しましょう ―言葉では説明できない“場の力”がここにある―

ひかりを伝えたひと

―七高僧と聖徳太子

第13回

親鸞聖人がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧」と呼ばれるインドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空（法然）。そして「和国の教主」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょう。本号では「正信偈」をとおして、曇鸞の教えを振り返ります。

曇鸞大師　四

本師曇鸞梁天子
常向鸞処菩薩礼
三蔵流支授浄教
焚焼仙経帰楽邦
天親菩薩論註解
報土因果願誓願
往還回向由他力
正定之因唯信心
惑染凡夫信心発
証知生死即涅槃
必至無量光明土
諸有衆生皆普化

（「正信偈」『真宗大谷派勤行集（赤本）』二一～二三頁）

曇鸞大師が示したこと

曇鸞大師に対する親鸞聖人のまなざしには、特にあついものが感じられます。

「正信偈」にせよ「高僧和讃」にせよ、親鸞聖人の曇鸞大師への着目点で特徴的なのは、その生涯におけるエピソードを取りあげることが多いという点です。曇鸞大師は最初から浄土の教えを奉じていたわけではありません。むしろ、仙人になるための教えの方に価値を置いたりしたこともありました。しかし、天親菩薩の『浄土論』を漢訳した菩提流支の呵責を受けて、浄土の教えに帰依します。親鸞聖人は、曇鸞大師のこのエピソードに繰り返し注目しています。それは、私たちがひかりに気づくありさまを、このエピソードに重ね合わせていたからかも知れません。

次に「正信偈」で取り上げられているのは、曇鸞大師は、天親菩薩の『浄土論』に注釈をほどこして『浄土論註』を著したということです。

では、曇鸞大師によって明らかにされたことは、どのようなことだったのでしょうか。「正信偈」には次のように述べられています。

法蔵菩薩の誓願は、阿弥陀仏の浄土として実現しています。その浄土と私の世界とは無関係ではありません。私が浄土に向かおうとする（往相）ことも、浄土が私にはたらく（還相）こともあります。もっとも、それは私の努力によるものではありません。私の努力など無くとも、確かにはたらいています。このようなはたらきを「回向」といいます。また、惑いに染まってしまっている私が浄土とつながるためには、私に信心がおこるだけでよいといいます。しかし、信心は私が努力して獲られるものではありません。努力して喜ぶことも努力して悲しむこともできないように、努力して信じることはできません。それでも、私たちにも信心がおこりえます。それが回向というはたらきです。そして、私に信心がおこった以上、私がひかりの浄土に至り、また迷いの世界にもはたらきかけることができるのです。

天親菩薩が示した一心は、曇鸞大師の注釈によって、往相・還相の回向と他力信心というより確かなひかりとなって親鸞聖人に届いたのでした。

「高僧和讃」の中でも、曇鸞大師の和讃は他の祖師たちに比べて多くなっています。また、親鸞聖人は、自らの名告りに天親菩薩と曇鸞大師とから一字ずつを取っています。ここからも、親鸞聖人が、曇鸞大師と、曇鸞大師によって示された天親菩薩の教えとをいかに大切にしていたのかが窺われます。

采睪　晃
大谷大学文学部
仏教学科教授
京都教区近江第25西組
長光寺住職

次回からは、道綽禅師についてたずねていきます。

あなたのお悩みお聞きします　東本願寺いのちとこころの相談室　075-371-9280（毎週木曜13時～17時 ※祝日・行事日は閉室）

人と生まれて 能登の大地に親鸞と生きん

～能登教区報恩講～

能登教区では、「令和6年能登半島地震」、そして9月の豪雨災害で被災され、今なお厳しい生活を送られている方も多くいらっしゃいます。

多くの方が仏事を勤めることが難しい中、ともにお念仏する仲間が心を寄せ合い、支え合っていくことを願い、2024年11月12・13日に済美精舎（石川県七尾市）において能登教区報恩講が勤まりました。

能登の現況とそれぞれの方が今抱えている思いとは…報恩講に集われた方のお声を紹介します。

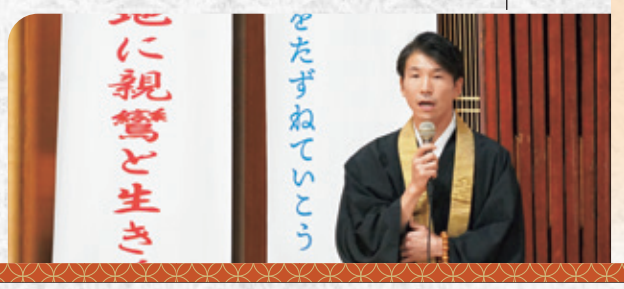
災害救援ボランティア団体活動報告

福田 正充さん（能登教区ボランティア委員会代表）

先輩方が培ってこられた土徳、「南無阿弥陀仏は大事だぞ」という教えを「なくしてはいけない、つなげていくんや」という気持ちで活動を続けています。

一カ所ではありますが、仮設住宅でお講ができました。みなさんが手を合わせ、互いに寄り添い、分かち合い、少しの間だけでも笑っていただける場所ができたことが大きな励みとなっています。

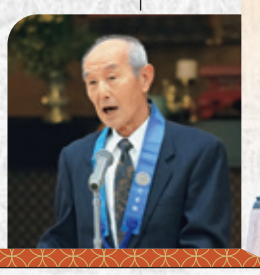
この能登の大地を、ともに守り支えていきたいと願います。



感話

米田 正昭さん（穴水組西蓮寺門徒）

今、仮設住宅に入居し、雨漏りの心配もなく、ゆっくりお風呂に入れ、暖かい布団で足を伸ばして寝られることに感謝しています。たくさんのものをなくしましたが、私にとっての大事な宝物は残っているような気がしています。



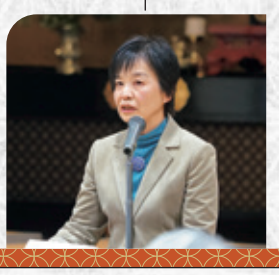
今寺 四郎さん（第八組長栄寺門徒）

いのちを守る教育を。「人と生まれて 能登の大地に親鸞と生きん」とあるように、やはりこの能登の地で生きていきたいのです。

末森 昌代さん（第一組西照寺坊守）

第一組の坊守会・大谷婦人会 能登第一組支部では、16回にわたる炊き出しと、被災地で法話・体操・特産品の購入を楽しむことをとおして復興を支援するボランティア活動を行いました。

参加されたみなさんの明るい姿に、きっと少しでも前を向きたくて、元気を取り戻す手立てを求めていらっしゃるのではないかと感じました。今後も支援を続けていきたいです。



初夜（音楽法要）

珠洲市内のお寺からも参加がありました。

法要

御俗姓（ごぞくしょう）

お斎（とき）

ボランティア委員会の委員の方を中心に精進カレーがふるまわれました。

法話

御伝鈔（ごでんしょう）

参拝者の声

教区報恩講にはここ10年ほど毎年お参りしています。今年も参拝したのは、やはり、「今だからこそお参りに行きたい」という気持ちがあったからかもしれません。（60代男性）

震災直後は「神も仏もないのか」と思っていましたが、今はやっぱり手を合わせることは大事だと感じています。今仮設住宅に住んでいますが、三折御本尊に手を合わせる生活です。お参りする場があるならば、行く。そういう気持ちです。（80代女性）

自坊は大規模損壊ですが、今年も何とか報恩講を勤めます。一度やめてしまうとご門徒のみなさんの足が遠のく気がして、どんな形でも続けたいという思いがあります。どうしようもない思いをぶつけるところがないから手を合わせるのかもしれません。（50代女性）

報恩講にはずっとお参りしています。物資やインフラは整ってきているから、これからはいのちのもととして帰っていける場を整えていくことが大事だと思います。それこそが今宗教に求められていることなのだと思います。（70代男性）

次の世代に念仏をつなげるように、これからも報恩講にはお参りし続けたいと思います。（80代男性）

2日間の報恩講をとおして、参拝されるみなさんから「手を合わせる場」への思いを感じました。「集まれる場」や「手を合わせる場」、そして「お念仏をともに申す場」の回復が望まれています。今後も宗派ではさまざまな活動をとおして、このような「場」の回復を支えていきます。

救援金を勧募しています

宗派では、「令和6年能登半島地震」に対する救援金を勧募しています。皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

救援金口座	郵便振替口座番号 00920-3-203053	加入者名	真宗大谷派 ※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。	救援金総額	242,037,489円（2024年12月2日現在）

問い合わせはこちら　宗派ボランティア支援センター　070-1860-6010（9時30分～16時）

お東さん（ひがし）ガイド

真宗本廟 報恩講 厳修

坂東曲

11月21日から28日にかけて真宗本廟報恩講が厳修され、8日間であわせて約35,000人が参拝した。また、「令和6年能登半島地震」で大きな被害を受けた能登教区からも185人の参拝があった。

21日の初逮夜から28日の結願日中まで七昼夜にわたり法要が勤まり、法要の前後には法話や感話が行われた。28日を除く毎日中法要後には帰敬式が執り行われ、報恩講を縁に多くの方が新たに仏弟子の名のりを上げた。

21日は報恩講の初逮夜に先立ち、御正忌報恩講讃仰法要が音楽法要によって勤まり、電子オルガンの音色と合唱団や参拝者の歌声が御影堂を包んだ。25日の夕刻には『御伝鈔』が拝読され、参拝者は仄暗い御影堂で、親鸞聖人のご生涯に耳を傾けた。親鸞聖人の御祥月命日の28日は、結願日中（御満座）が「坂東曲」で勤まった。「坂東曲」は何十人もの僧侶が体を前後左右に力強く揺らしながら念仏・和讃を繰り返す声明で、この「坂東曲」にあおうと、のべ5,000人の参拝者が訪れ、御影堂の縁からも参拝される姿があった。

御伝鈔

報恩講のダイジェスト動画を公式YouTubeで公開しています。

◆令和6年能登半島地震復興支援事業

報恩講期間中、令和6年能登半島地震復興支援事業としてさまざまな企画を実施した。お東さん広場では22日から24日まで「東本願寺 能登半島地震復興応援ひろば」（北國新聞社共催）が開催された。能登産のお米やお菓子、工芸品などの販売に加え、カニ汁や能登ガキなどの食事を提供する店など約20店が門前に市をなした。25日から28日までは、御影堂門下にブースを設け、引き続き能登の物産品が販売された。

また、21・22日には、渉成園の闌風亭において、「能登復興支援法座 能登節の夕べ」が開かれ、廣陵兼純氏（能登教区満覺寺）により「節談説教」が行われた。節談説教は高座の上で抑揚を付けながら仏法を伝えるもので、能登においては昭和の名人とされる範淨文雄氏らにより能登の方言で語られる「能登節」として伝えられており、廣陵氏は「能登節」の伝承者として広く活動を続けてきた。当日は能登教区ボランティア委員会から能登教区の現状報告も行われ、目の前の現実に向き合い、今後も活動を続けていきたいと語られた。その後廣陵氏による節談説教が2席あり、会場では、来聴者の笑いと涙、そして話を受けて「南無阿弥陀仏」と念仏される姿が見られた。

東本願寺 能登半島地震復興応援ひろば

◆お斎（とき） ―食して能登支援―

報恩講期間中に提供される「報恩講お斎」は、毎年全国各地の「お講」から持ち寄られた食材によって調理されている。今回は、能登半島地震の復興支援として、毎年提供いただいている牛蒡に加え、石川県能登の中央部、旧中島町で栽培されてきた伝統野菜「中島菜」を練りこんだ中島菜うどんを献立に盛り込んだほか、白ご飯も石川県産のお米が使用された。

◆多彩な行事

23日には子ども報恩講のつどいを開催し、全国から約250人の親子が参加した。また土日を中心に東本願寺キャラクター大型バルーンや子ども参拝案内所が開設され、子どもたちの笑顔が境内にあふれた。

境内では、「手水屋形（重要文化財）」の修理現場公開や解放運動推進本部の取り組みを紹介するパネル展、真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会の企画による刑務所作業製品展示即売会とパネル展示などが行われた。

また、昨年に引き続き阿弥陀堂において『教行信証』坂東本の解説が行われた。他にも親鸞聖人讃仰講演会や東本願寺たかくらこども園園児による発表会、御正忌報恩講コンサートといった恒例行事も開催された。

子ども報恩講のつどい

レポート

大阪教区 慶讃法要 オープニングセレモニー開催

2024年10月28日、2025年4月17日から20日にかけて勤められる大阪教区「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」のオープニングセレモニーが、難波別院で開催された。真宗宗歌斉唱に続く禿信敬教務所長の挨拶では、「多くの方々に法要を近くに感じていただきたい」と、慶讃法要モニュメントの意味について語られた。山雄竜麿慶讃法要委員会委員長は、国内での自然災害被害、世界での戦禍で苦しむ方々に思いを馳せられ、その中で法要を勤めることの意味を考えていきたいと話された。そして和田正難波別院門徒会長が、慶讃法要に遇うことのできるよろこびを述べられた後、東大谷高校吹奏楽部の演奏があり、弾けるようなリズムの溌剌とした曲で、セレモニーを盛り上げた。慶讃法要モニュメントと日にちのカウントダウンボードが除幕お披露目され、最後に溝口重雄法要委員会副委員長が「慶讃」ということについて、「宗祖は何をもって「慶び」とされるのか」と語られた。

用意された椅子が急遽追加されるほどたくさんの参列者が集まり、法要を迎えるための気持ちを整える良いセレモニーとなった。

（大阪教区通信員 高名等）

お知らせ

お内仏での勤行

合掌御膳

「縁（えん）」―「お父さんのおかげで」収骨をご縁に同朋会館に宿泊

11月1日より、同朋会館の新たな取り組みとして、真宗本廟収骨・大谷祖廟納骨・帰敬式受式をご縁として上山された方々を対象とした宿泊受入れを開始した。

入館後は、お内仏での勤行を行い、その後は各自の予定に合わせて自由に過ごすことができる。希望によって「諸殿拝観」や「渉成園の散策」なども行う。また、夕食は食堂で合掌御膳をとることもできる（要事前予約）。

「同朋会館に泊まって、ゆっくりお話ししませんか」。住職からの声かけによって、さっそく11月2日から1泊2日にて、真宗本廟収骨をご縁に東京都から山田家が入館。ゆったりとした時を過ごす中、「お父さんのおかげで東本願寺とのご縁ができたよ。ありがとう」と語る姿や、亡き人との思い出や、「生きること」に思いをめぐらせ、語り合う姿が見られた。

翌日は、晨朝参拝の後、「次は奉仕団で上山したいです！」との言葉を残して退館し、真宗本廟収骨に向かわれた。

2月の宿泊可能日（1、2、6、7、9、10、14、15、22、23日）　詳しくは、下段の広告をご覧ください。

東本願寺御用達
日下念珠店
〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話　(075)351-6325
フリ-FAX　0120-89-5255
定休日：日曜日

12月20日発売

私たちが
いのちを懸けても
“問うべきこと”は、
一体何か…
著者最晩年の講義を
ここに書籍化。
歎異抄に何を学ぶのか
宮城 顗 著
四六判 328頁／
定価：2,200円（税込）
東本願寺出版 HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

縁（えん）
―納骨・帰敬式 同朋会館宿泊プラン―
納骨・帰敬式でのご参拝を縁に、同朋会館での生活を体験してみませんか？
宿泊可能日　縁ホームページもしくはお電話にてご確認ください。
冥加金　1人：10,000円／小学生以下：5,000円（1泊朝食付）
申込方法　宿泊日の30日前までに、縁ホームページもしくはお電話にてご予約ください。
お問い合わせ　同朋会館・研修部
TEL：075-371-9185（直通）／FAX：075-371-9201
E-mail：dobokaikan@higashihonganji.or.jp

ご案内

真宗本廟

開門・閉門時間／3月～10月：5時50分～17時30分
11月～2月：6時20分～16時30分

晨朝（おあさじ）
【場所】阿弥陀堂及び御影堂
【時間】毎日7時～

晨朝法話
【場所】御影堂
【時間】毎日7時30分頃～

真宗本廟法話
【場所】視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間
【時間】通常　10時10分～／13時10分～
逮夜日（12・27日）13時10分～
御命日（28日）　9時30分～
※その他、時間・会場を変更する場合があります。

参拝接待所ギャラリー
【時間】9時～16時
修正会展（～1月14日）
「親鸞聖人のご生涯」（常設展）（1月16日～）

詳しくは ➡ 東本願寺 検索

しんらん交流館

真宗本廟（東本願寺）へご参拝の際には、ぜひお立ち寄りください。
開館時間／9時～17時
休館日／毎週火曜日、12月28日～1月7日

1月の定例法話
【時間】毎日14時（12日・27日は10時～）
※休館日、1月8日・9日は休会。その他、都合により休会する場合があります。

1月の東本願寺日曜講演
【時間】9時30分～11時
【講師】1月19日　難波 教行氏（教学研究所所員）
1月26日　箕浦 暁雄氏（大谷大学教授）

交流ギャラリー
「お釈迦さまとその風景」展 開催中

詳しくは ➡ 浄土真宗ドットインフォ 検索

2024年度 真宗本廟奉仕に参加してみませんか

真宗本廟奉仕を機にぜひ帰敬式を受式ください

おみがき奉仕団
春の法要を迎えるにあたって、真宗本廟内の仏具のおみがきを中心とした奉仕団です。

2泊　2025年 3月2日（日）～4日（火）
1泊　2025年 3月2日（日）～3日（月）

春の法要奉仕団
宗祖親鸞聖人の御誕生を縁とした親鸞聖人御誕生会（音楽法要）や全戦没者追弔法会等の「春の法要参拝」を中心とした奉仕団です。

2泊　2025年 4月1日（火）～3日（木）
1泊　2025年 4月1日（火）～2日（水）

【参加費】〈2泊3日〉18,000円、米2kg（1升4合）または米代1,300円
〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg（8合）または米代800円
※上記は大人（15歳以上）の場合です。

※申込締切は各入館日の40日前です。

お申し込み・お問い合わせ　同朋会館・研修部　TEL:075-371-9185

入館中はお仲間や他団体の方々とカフェ（無料）でほっこり♪

読者のお便り

本堂の外から手を合わせる

石川県珠洲市
佐々木 初美（74歳）

能登は昨年の1月1日の地震で、急激に環境が変化しました。長年の習慣の中で生きてきた私たちは戸惑い、涙に暮れております。仮設住宅に入ったことで、近所の人たちとは疎遠になり、手次寺は本堂こそ何とか建っていますが、庫裏が壊れ、住職も仮設住宅で暮らしておられます。

このような状況なので、昨年は手次寺の報恩講の案内がなく、本当に残念でした。お寺の鐘に誘われ、近所の人とお参りに行ったこれまでの報恩講が懐かしく想われます。私は法話の後に皆で唱和する恩徳讃が大好きなのですが、今は本堂の外から手を合わせるだけです。本当にさみしいことです。復興はまだまだ先ですが、これからも心の拠り所として手を合わせていきたいと思います。

お便り募集　『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。
宛先　Eメール／shuppan@higashihonganji.or.jp　FAX／075-371-9211
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「同朋新聞編集係」
◆住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

今月号の『同朋新聞』を読んで、クロスワードパズルを完成させよう！

プレゼント付

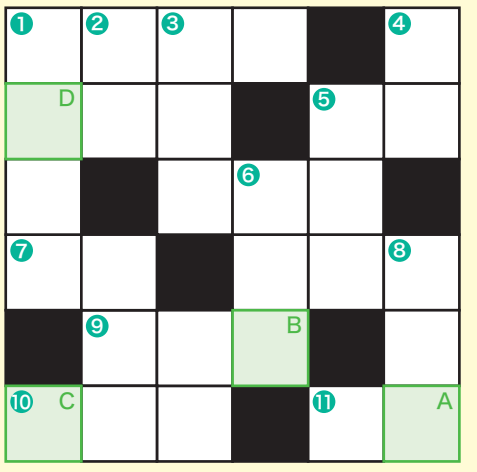
「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、クロスワードパズルを完成させましょう！ 1月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!

タテのカギ

1. 「読者のお便り」今月のタイトルは「〇〇〇〇の外から手を合わせる」です。（8面）
2. 「七こ〇〇う」はインドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空です。（5面）
3. 東本願寺ホームページで『同朋新聞』が〇〇〇いただけます。（8面枠下）
4. 「浄土の真実信心の人は、この身こそあさましき不浄造悪の身なれども、心はすでに如来と〇〇しければ、如来と申すこともあるべし」（1面・「今月の法話」）
5. 「ひかりを伝えたひと―七高僧と聖徳太子」今号のテーマは「曇鸞大師が〇〇〇たこと」です。（5面）
6. 6面のタイトルは「人と生まれて 能登の大地に親鸞と〇〇〇 ～能登教区報恩講～」です。
8. 今月は、小谷まゆみさんのお〇〇〇から人間の相を考えます。（2・3面）

ヨコのカギ

1. 11月21日から28日にかけて真宗本廟〇〇〇〇講が厳修されました。（7面）
5. 親鸞聖人がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった〇〇して、生涯大切に仰がれた方々がいます。（5面）
7. 「現在を生きる」石川県南加賀の地、小松大聖寺教区で、500年以上前から〇〇継がれてきているのは、「お講」です。（4面）
9. 「真宗本廟 報恩講 厳修」11月25日の夕刻には『〇〇〇鈔』が拝読されました。（7面）
10. 「縁―お寺の掲示板―」では、お寺の掲示板に込められたさまざまな〇〇〇を、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。（4面）
11. 飛地境内地の渉成園「閬風亭」において令和6年能登半島地震復興支援事業として「能登復興支援法座 能登〇〇の夕べ」が開催されました。（1面）



11月号のクロスワードパズルの答えは、づ（A）わ（B）ぶ（C）き（D）

答え　A　B　C　D

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

読者のこえ　10月号を読んで
◆1面の「小松大谷高等学校野球部 甲子園出場」の写真の元気いっぱいの球児たちの姿を見て、元気になれます。（石川県80代）
◆6面の「特集」で、「淘」について教えていただきました。なぜと思っていたことを、一つ知ることができました。（富山県30代）

正解者の中から抽選で3名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1,000円分」、2名様に月刊『同朋』をプレゼントします！

郵便はがきまたはメールにて、❶「クロスワードパズルの答え」❷「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と❸『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、右記までご応募ください。今月号の締め切りは2月10日（月）（当日消印有効）です。

宛先　〒600-8505
京都市下京区烏丸通七条上る
東本願寺出版
「クロスワードパズル係」まで

メールでも応募できます！
はがきと同様に必ず左記❶❷❸を記入し、「件名」に「同朋新聞1月号クロスワード応募」と入力のうえhigashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。

応募はコチラ

〈ご注意〉◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報はプレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」や「読者のこえ」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

編集室だより

◆今月号で8面にリニューアルして1年が経ちました。紙面は減っても内容はそのままに、を心がけて紙面づくりをしてまいりましたが、さらなる紙面内容の充実をはかるため、『同朋新聞』に関するwebアンケート（1面参照）を実施することになりました。素敵なプレゼントも用意しておりますので、こういうコーナーがほしい！ こういうお話が読みたい！ といったみなさまの声をお待ちしています。

◆1月1日で「令和6年能登半島地震」から1年。2・3面では被災されたご門徒の小谷まゆみさんにお話をお伺いしました。ご自身もご病気を抱えながら、「自分がやれることをやる」と行動されている小谷さんのお話を聞きながら、そういう状況になった時、自分だったら何ができるのだろうか、と思いを巡らせました。また、6面では能登教区報恩講を掲載しています。参拝される方々が楽しそうにお話されている姿を見て、「嘆仏偈」の「光顔巍巍」とはこういうお顔なのかもしれないと感じました。（玉井）

ご注文・お問い合わせは
東本願寺出版 HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING
TEL 075-371-9189
FAX 075-371-9211
詳しい書籍情報は 東本願寺出版 検索
LINEアカウントを開設しました！ @469jqkzt

会員登録フェア
はじめての会員登録でポイントがもらえます！
【期間】1月8日～2月28日
登録はこちらから
2023年10月にリニューアルした東本願寺出版ホームページ。皆様にはあらためて会員登録をしていただいております。まだお済みでない方、この期間にご登録いただくと、登録時に500ポイントをプレゼント！ ポイントは、ホームページ内のお買い物でお使いください！

『仏教がみちびく、あらたな人生』
特別企画「極楽」はどんなとこ？
極楽ってどんな世界？ 死んだら行くところ？ 身近な疑問をもとに「極楽」をたずねてみましょう。
対談　若松 英輔 × 二階堂 行壽
寄稿　「浄土に冴える鳥の声」福田 琢 ほか
月刊『同朋』1月号
A4判・オールカラー 60頁／定価：400円（税込・送料別）
年間購読：4,200円（税込・送料込）

真宗聖典 第二版
好評発売中
大判 定価 4,950円（税込）
小判 定価 4,400円（税込）

東本願寺ホームページで『同朋新聞』がお読みいただけます　同朋新聞　検索